

岡崎市水循環の取組みの経緯

- 平成 18 年 1 月に額田町と合併し、乙川流域が全て岡崎市に含まれる。
- 本市の水道水源の約 50%を乙川が担っており、岡崎市の水がめと言えるその水源を良好に保全していくことが最重要課題となっている。
- 平成 17 年 水の総合計画検討 準備
- 平成 18 年 4 月 **岡崎水環境創造プラン** 検討
- 平成 20 年 3 月 **岡崎市水環境創造プラン** 策定
水循環(流域)の視点から水のあるべき姿とその実現に向けた取組み
- // 岡崎市水を守り育む条例 制定
本市の水に対する基本的考え方
- 平成 20 年 8 月 岡崎市水循環推進協議会 発足
水環境創造プランの進行管理
- 平成 23 年 10 月 庁内に水循環検討プロジェクトチーム 発足
関係各課の若手職員による計画案の検討
- 平成 26 年 3 月 重点施策を改定
- 平成 27 年 6 月 岡崎市水循環推進協議会 緑のダム部会 発足
諮問により水源かん養の観点から重点施策の立案検討
H27:現状把握(森林の現状と現地調査、問題点の整理など)
H28:施策案の取りまとめ(下記 2 (1)～(6)までの施策を検討中)
- 平成 28 年 10 月 「平成 28 年度先進的な流域マネジメントに関するモデル調査」の実施団体に決定
- 平成 29 年 1 月 水循環基本計画に基づく「流域水循環計画」に認定
- 平成 29 年 2 月 岡崎市水循環推進協議会 答申予定
- 平成 29 年 4 月 新たな重点施策を検討予定 (～平成 31 年度)

岡崎市水環境創造プランの概要

身の回りの「水」に関すること

- ①将来のあるべき姿
- ②それを実現するための取り組み

→ 5つの基本方針

(水量について)

- 雨を受け止め、時間をかけて川へ流し、上手に水を使う

(水質について)

- 汚れのもとを減らし、清らかな流れを保つ

(災害（洪水・渇水）について)

- 雨を流域にとどめて水害を減らし、渇水や震災に備える

(水辺環境について)

- 岡崎在来の豊かな自然とふれあえるまちをつくる

(水との関わりについて)

- 水との関わりを深め、水を通してつながりあう

○今後の取り組み

平成29年2月の答申を受け、基本方針の一つである水量に関する取り組みをより一層推進していく予定。特に森林における、公益的機能の観点からの啓発や森林整備に関する取り組みを強化していく。

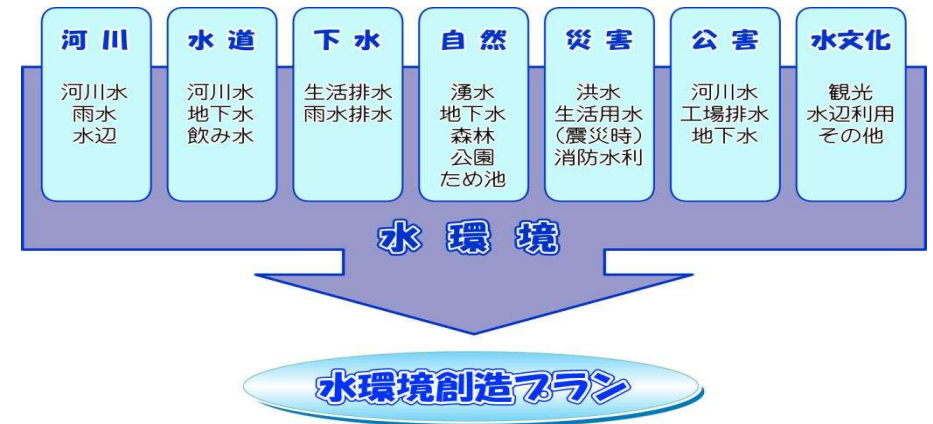


図1：水環境創造プランの策定範囲



図2：水環境創造プランのイメージ